

## 2014年9月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、ヨーロッパ、及び東シベリアから北米にかけて正偏差、グリーンランド付近、西・中央シベリアで負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、太平洋西部から中部にかけて平年の位置と比べて南偏した。帯状平均した気温は、対流圏では北半球高緯度を除いて高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、太平洋の熱帯収束帯、インド洋西部で活発、ベンガル湾からインドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬に太平洋から大西洋に東進し、下旬にインド洋・太平洋西部に位置した。対流圏下層の太平洋中部では、中旬は西風偏差であったが下旬に東風偏差になった。対流圏上層では、チベット高気圧は全般に平年より強かった。南方振動指数は-0.6だった。

### 世界の天候

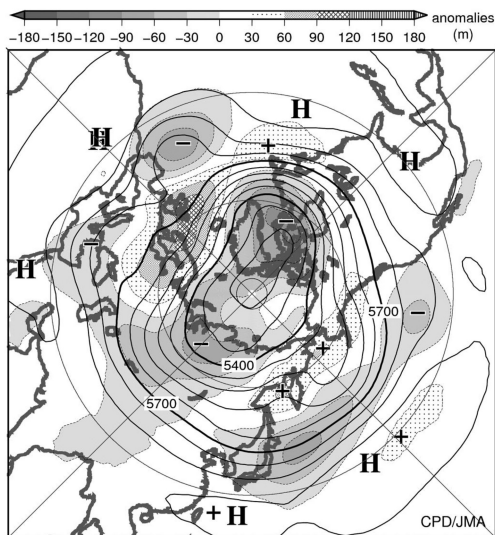
2014年9月の世界の月平均気温偏差は+0.34°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.61°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

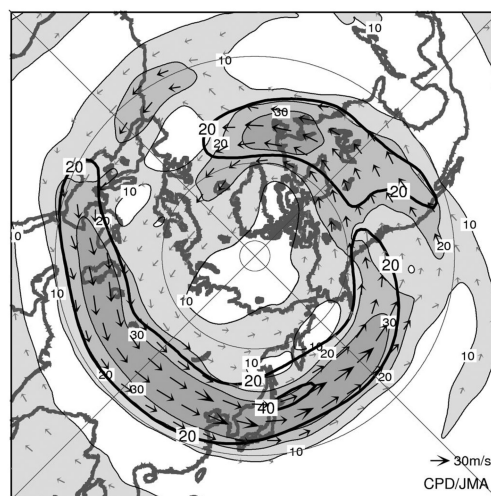
- 沖縄地方～中国南東部では異常高温となった。
- ヨーロッパ西部及びその周辺では異常少雨となった。
- オーストラリア南東部～西部では異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

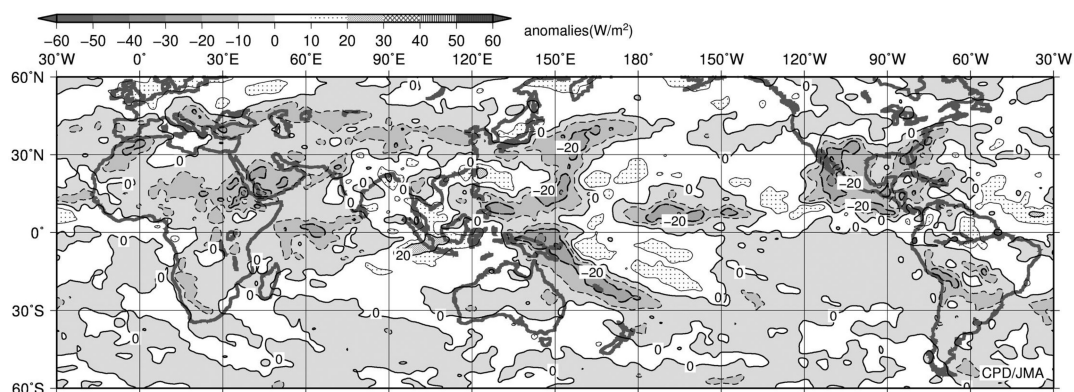
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。  
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年9月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差  
 等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

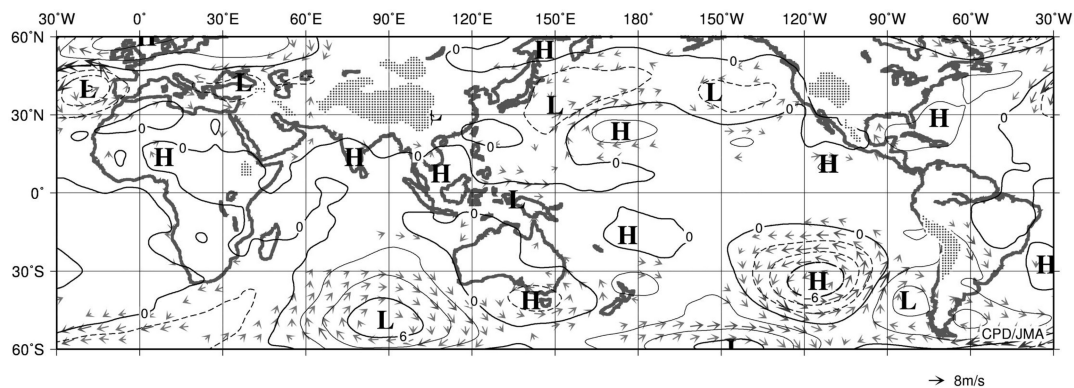


2014年9月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル  
 等値線間隔は10 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



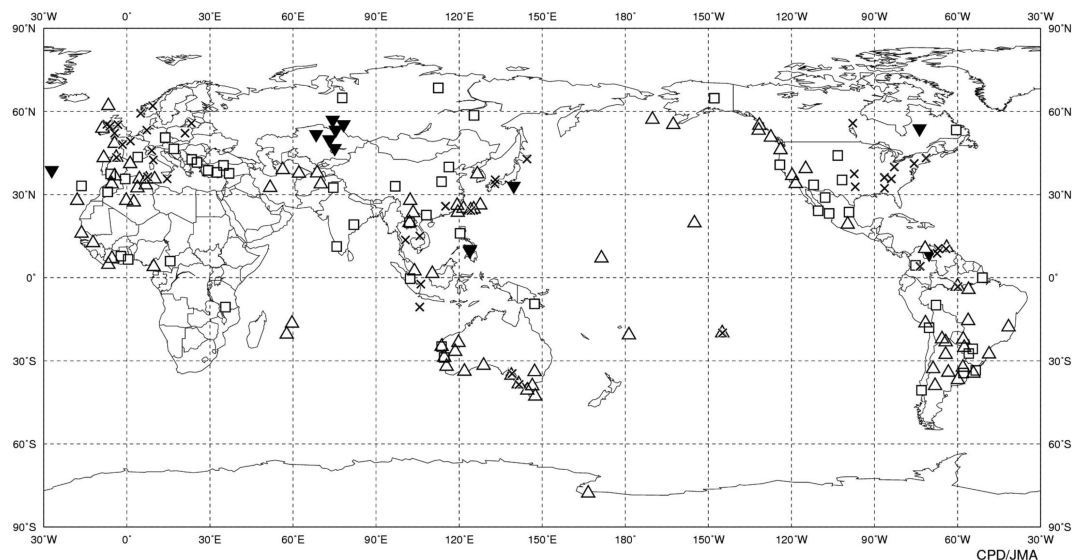
2014年9月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。